

地域住民「恐怖を感じた」

大谷市議は6月議会で、米軍機の低空飛行について質問。部長は「市民からの情報把握に務める」と、市長は「必要があれば県と連携し対応する」と答弁しました。

低空飛行で爆音被害

3月15日、小野地域の市民から「ヘリが墜落したのではないか」という情報で、消防署・消防団や警察、大分県の搜索ヘリも出動する騒ぎとなりましたが、墜落はしておらず、米軍機の低空飛行訓練でした。米軍機は、日米地位協定に基づき日本の国内航空法の適用外で、全国各地域で爆音被害や落下物などで地域住

イエロールート

九州の訓練コースは、イエロールート（左の地図）と呼ばれ、大分県の犬飼駅付近から玖珠町、日田市、英彦山付近で急角度旋回し、佐伯市宇目町の北川ダムまでをポイントとしています。日田市小野地域ではルートの下にあたり、数回確認されています。

市民からの情報収集を

大谷市議は、通報や市の対応、今後の取組について質問。総務部長は「これまでの通報

は令和4年3件、令和5年3件。市民にはホームページ等で情報提供を周知する」また「住民が騒音が大きいという時は騒音測定器を検討する」と答弁しました。

「市長は中止を求めよ」

「低空飛行の中止など県と連携し九州防衛局に申し入れるべきではないか」と質問。市長は「住民の不安解消のため、必要があれば県と連携し情報の開示や安全管理について申入れを行うなど適切に対応する」と答弁しました。

大分県内では、大分市では大学や団地のある敷戸にミサイル基地建設や、由布市のミサイル部隊の配備、大分県は石垣島の住民の避難受け入れの準備などが検討され、有事対応の強化が進んでいます。

低空飛行は、「台湾有事」を想定した訓練の強化とみられ九州で増加しています。西日本新聞6月28日付の1面には大きく「米軍低空飛行 苦情の嵐」との記事が掲載されています。

イエロールート



- ①犬飼駅か
- ②英彦山
- ③日向神ダム
- ④阿蘇山火口
- ⑤緑川ダム
- ⑥市房ダム
- ⑦北川ダム

相次ぐ低空飛行 住民ら恐怖



小野地区の住民の話を聞く大谷、日隈両市議「でっかい機体が私の真上を」と住民(4月7日)

